
知ろうとする私／知られるはずの私 [千文字小説]

尖角?

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

知りうと/orする私／知られるはずの私 「千文字小説」

【NZコード】

N8960X

【作者名】

尖角？

【あらすじ】

好きだけれど、想いの通じることのない恋。
「それはなぜなのか？」と理由を問う話。

私は私を知りはしない。

それは、生まれた時に、自分を見る力を失っているから。

言葉に出来ないもどかしさが私を襲つて来る。

なんで、私は私を知らないのか？

どうしても知りたいのに。

なんで、私は私を知ることができないのだろう？

私は不思議でたまらない。

他人から見たら、どのように映るのか？

「鏡を見ればいいじゃん」 それは誰かが言ったセリフだ。

けれど、私は見てくれなんかに興味はないし、それに鏡は左右逆
だもの。

そんな偽りには興味ないわ。 私が知りたいのは、本当の私。

虚像なんかじゃなく、私が見る私なんかじゃなく、君が見る私。

それが私は知りたいの。

本当は他人なんかどうでもいいはずなのに、君からの私はとても
気になるの。

君のことが、大好きだから? もうことを、愛しているから?
違うの、そうじゃないの。

私は、君を愛さなきゃいけないの。 愛していなきゃいけないの。
だから、私は生まれた瞬間から、^{さだめ}その運命を貰つて生きてくるの
だから。

君じやないと意味がないから、私は君だけを愛しているの。

それは、自己満かもしれないし、君は私に興味なんてないのかも
しない。

けれど、それでも私は良いの。

私が君を愛していれば、運命は満足するもの。

それだけで、私は満足だもの。

だから、君が私に振り向いてくれなくとも、君にひとつ一一番田の
女だったとしても、それでもいいの。

だから、傍に置いてよ。

それが叶わないのなら、私は生きている意味がないもの。

私は、あなたに逢つて恋を抱いた。

君、だって、好きでなくとも私を抱いたはずだ。

それは、なんでなの？ 私が女だったからなの？

それとも、私だったからなの？ 私には全然わからないよ。

君に別れを告げられたからって、そんなんで諦める私じゃないよ。

だって、君を愛さなきやいけないんだもの。

諦めたら、運命が廃るもの。

だから、私は生きている限り、君を諦めちゃいけないのよ。

それが、なんでかわかる？

私を必要としない君に、その意味が解る？

どうせ、わからないよね。

だって、所詮は君だもの。

理解力がなさすぎて、憐れみすら感じるわ。

本当にかわいそつだわ。

だって、そんな君を愛さなきやいけないんだもの。

私がかわいそうだわ。

だつて、そう思わない？

君を愛さなきゃいけないから、君を愛してるわけで、別に君なんて・・・

別に君なんて興味ないもの。

私は愛して、君は愛してくれない。

それはなんで？ 世界が理不尽だから？

君が理不尽だから？ 答えぐらい、教えてよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8960x/>

知ろうとする私 / 知られるはずの私 [千文字小説]

2011年11月23日20時52分発行